

団 体 名	美しい山形・最上川フォーラム	
代 表 者	会長 柴田 洋雄	
所 在 地	山形県山形市緑町 1-9-30 緑町会館	
事 業 内 容	<p>「身近な川や水辺の健康診断」</p> <p>1. 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「身近な川や水路の水質が知りたい」という県民の声に応えるため、誰もが参加しやすく、わかりやすい水質調査を平成14年度から毎年実施。水のごりや富栄養化(窒素・リン)の問題への理解と関心を高める。 ・簡単な水質調査キットを使って調べる活動を通じて、河川への関心を深め、生活との関わりを理解し、水環境の大切さや改善したい課題を発見することで、水質や水の循環、動植物の生息環境の保全や改善のための取組みにつなげていく。 ・調査結果はホームページで公表し、情報の共有や地域ごとの課題解決の材料として活用することを期待する。 <p>2. 内容</p> <p>(1) 参加グループ数：100グループ、調査地点250地点を想定</p> <p>(2) 調査の実施期間：6月4日(土)～6月12日(日)</p> <p>※学校の授業・部活動等で実施する場合、6月4日(土)～7月29日(金)</p> <p>参加者は、期間内で都合の良い目時に希望の場所にて調査活動を行う。</p> <p>(3) 調査項目</p> <p>①パケットテスト6項目(パケットテストや調査マニュアル等は当フォーラムが提供。)</p> <p>(pH、COD、アンモニア性窒素、<small>あしやうさんせいちつそ</small>亜硝酸性窒素、<small>しょうさんせいちつそ</small>硝酸性窒素、リン酸性リン)</p> <p>②川の概要(水温、川幅、水深等)</p> <p>③1メートル透視度計による透視度測定(貸し出しを行う)</p> <p>④水辺環境の目視調査(自然植生、泡立ち、散乱ゴミ等)</p> <p>⑤水生生物調査(主催：山形県環境科学研究センター)</p> <p>※調査を希望する団体のみ最上川フォーラムを通して申込み可能とする。</p> <p>⑥公定法調査実施機関に対して、大腸菌群数調査も合わせて依頼</p> <p>(4) 調査結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施グループより6月17日(※学校関係は、8月5日)まで報告書を提出してもらい、データを集計する。 ・調査結果を総合的に分かりやすく表すために、各調査項目を得点化し、清流指標「水辺診断書」(五角形によるレーダーチャート)を作成し評価。 ・ホームページにて報告データを公表すると共に、年度末に河川地図上、流域ごとに水辺診断書の結果を掲載する。 	<p>(5) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パケットテストによる調査にあわせて、一般財団法人理化学分析センター、株式会社理研分析センター、一般社団法人山形県水質保全協会ほか環境分析関係事業所の協力を得て、同一地点において公定法調査も実施し、パケットテストの精度の参考としている。 ・上記環境分析関係事業所からは、初めて参加するグループ等へ現地調査サポートの協力をうけ、専門的な分野から水環境に対する啓蒙活動も行う。 ・小中学生の実施グループには、水辺の環境を考える参考にしていただくため、報告を受けてから速やかに「水辺診断書」を作成し提供する。 ・水環境向上活動をしている団体の成果を発表する「もがみかわ水環境発表会」を11月に開催し、成果発表の場を設けている。
事業実施期間	平成 28.4 ～ 29.3	
事業実施場所	山形県内全域	
事業総額	570,000円	
助成金額	200,000円	

団 体 名	快適な生活環境を守る会	加藤学園高等学校 化学部
代 表 者	松本 明弘	竹本 大起
所 在 地	静岡県藤枝市稲川 440-3	静岡県沼津市大岡自由が丘 1 9 7 9
事 業 内 容	<p>小学生を対象とした「水環境教育」、「浄化槽普及啓発」事業の実施</p> <p>1. 目的 小学校に出向き、4年生児童を対象とした水についての環境教育を計画しました。一般家庭で使われた水はどのようにして川に流され、自然へと返っていくかという水環境についての知識を習得し、水の大切さを学んでもらうことを目的とします。</p> <p>2. 内容 (1) 水の学習コーナー (2) 浄化槽のミニチュアモデルコーナー (3) 小型合併処理浄化槽の実物大カットモデルコーナー (4) 浄化槽ビデオコーナー (5) 浄化槽カルタ大会</p>	<p>河川の水質調査と高度生活排水処理装置の開発</p> <p>1. 河川の水質調査 沼津市内の主要 1 2 河川について、生活排水に関わる栄養塩類の分析。硝酸イオン態窒素の紫外吸収分析法の研究。</p> <p>2. 高度生活排水処理装置の開発 産業廃棄物を利用した高度生活排水処理装置の開発。</p> <p>3. 水辺の写真コンクール 沼津市の水環境展を継続して開催し、河川の水質と浄化槽について情報を発信する。</p>
事業実施期間	28. 7 ~ 28. 10 (8月は除く)	平成 28. 4. 1~29. 3. 31
事業実施場所	<p>【牧之原市実施予定校】 7校 ①学校組合立牧之原小学校 児童 25名 ②牧之原市立川崎小学校 児童 76名 ③牧之原市立細江小学校 児童 90名 ④牧之原市立勝間田小学校 児童 20名 ⑤牧之原市相良小学校 児童 96名 ⑥牧之原市菅山小学校 児童 28名 ⑦牧之原市地頭方小学校 児童 34名</p> <p>【島田市実施予定校】 9校 ①島田市立金谷小学校 ②島田市立五和小学校 ③島田市立島田第一小学校 ④島田市立第三小学校 ⑤島田市立島田第四小学校 ⑥島田市立六合東小学校 ⑦島田市立初倉南小学校 ⑧島田市立川根小学校 ⑨島田市立相賀小学校</p>	加藤学園高等学校
事業総額	503,884円	537,960円
助成金額	200,000円	200,000円

（一社）全国浄化槽団体連合会 「平成 28 年度 水環境保全助成事業（審査ベース）」

団 体 名	上林川を美しくする会	全国水源の里連絡協議会
代 表 者	会長 川端 勇夫	会長・京都府綾部市長 山崎 善也
所 在 地	京都府綾部市野田町須知山 110-10	京都府綾部市若竹町 8 番地の 1
事 業 内 容	<p>上林川を調べて・知って、守り育てる活動事業</p> <p>1. 目的 京都府内有数の清流として知られる上林川は、近年生活排水の流入などにより、水質の悪化が懸念されている。「上林川を美しくする会」は、上林川流域の住民、市民、行政の協働により設立され、上林川に清流をよみがえらせ、次世代に引き継ぐことを目的とし、継続して活動を実施している。</p> <p>2. 内容 ①上林川の水質等の調査分析、水生生物の調査を実施し、上林川の現在の状態を把握する。 ②一般市民の協力、参加も得て、上林川流域のヨシ刈り作業や清掃活動を実施することにより、上林川の景観の美化を図る。 ③会報等で積極的に上林川の情報を発信するとともに、水環境保全の啓発を行う。</p>	<p>情報誌「水の源」発行事業</p> <p>1. 目的 「上流は下流を思い、下流は上流に感謝する」の理念のもと、水源の里地域における振興と水環境等の保全に取り組む全国の自治体が連携し、水源の里振興の理念を国民運動として広げていく。</p> <p>2. 内容 森林や水環境保全に大きな役割を果たす水源の里地域の情報発信、交流、連携を図るため、情報誌を発行する。</p> <p>※名 称 「水の源」 (みずのみなもと)</p> <p>※目 的 ①水源の里の理念を全国に展開していく。 ②集落の情報を全国に発信していく。 ③下流（都市部）の皆さんの理解と協力を求めるとともに、交流を推進する。</p> <p>※発 刊 年 4 回</p> <p>※部 数 3,000 部/回</p>
事業実施期間	平成 28.5 ～ 29.3.31	平成 28.7 ～ 29.3
事業実施場所	綾部市市内	全国
事業総額	784,550円	1,070,400円
助成金額	200,000円	200,000円

（一社）全国浄化槽団体連合会 「平成 28 年度 水環境保全助成事業（審査ベース）」

団 体 名	（公社）北海道浄化槽協会	（公社）宮城県生活環境事業協会
代 表 者	会長 丹羽 道正	会長 佐藤 佑
所 在 地	北海道札幌市豊平区平岸五条 7-7-10	宮城県仙台市宮城野区日の出町 2-5-15
事 業 内 容	<p>浄化槽啓発用ポスター及び標語の募集並びにポスター制作</p> <p>道内在住の小・中学生を対象とした浄化槽に関する啓発用ポスターを募集するとともに、優秀作品を環境パネル展等で公表・掲示する。また、併せて標語についても、年齢制限をせずに募集する。</p> <p>入選したポスターの 1 作品及び標語の 1 作品については、啓発用のポスター及びクリアファイルとして作成し、広く道内の自治体や会員企業等を通して浄化槽の普及啓発を行う。</p> <p>なお、ポスター等募集にあたっては、浄化槽の説明資料を添付し、多くの道民に浄化槽を知る機会と参加を誘導する。</p>	<p>環境フェア等への参加にともなう普及啓発活動</p> <p>県内の市町村で開催される環境フェア及び産業まつり等のイベントに参加して、広く県民に浄化槽による水質保全の利点を啓発し、水辺の環境保全の必要性をアピールするもの。</p> <ol style="list-style-type: none"> 顕微鏡による微生物観察 浄化槽カットモデル、ミニチュア等による汚水処理の説明 ターポリン幕・パネルによる浄化槽の特徴や水質保全の解説 パンフレット等の配布を行う予定
事業実施期間	平成 28. 4. 1 ～ 29. 1. 30	平成 28. 9 ～ 28. 11
事業実施場所	北海道庁 1 階ロビー	仙台市、 ^{とめし} 登米市、大崎市、 ^{ぎおうちょう} 蔵王町等
事業総額	417,048円	170,640円
助成金額	200,000円	85,320円

団 体 名	(公社) 茨城県水質保全協会	(一社) 群馬県浄化槽協会
代 表 者	理事長 成田 浩明	会長 小倉 喜八郎
所 在 地	茨城県水戸市吉沢町 650-1	群馬県前橋市大友町 2-29-21
事 業 内 容	<p>「水戸市環境フェア2016」「霞ヶ浦環境科学センター夏まつり2016」「2016 環境展・消費生活展」開催に伴う浄化槽の啓蒙活動</p> <p>1. 浄化槽の模型展示 2. 浄化槽普及啓発パンフレットの配布 3. 浄化槽に関するパネル展示 4. 生活排水に関するクイズの実施 5. 水を汚さない為の工夫のチラシ配布 6. 浄化槽紙芝居の実演</p>	<p>身近な河川水質調査</p> <p>1. 目的 本調査は、地域住民の生活に身近な河川、水路等（以下、「身近な河川」という。）の水質を長期継続して測定することにより、浄化槽の設置推進が生活排水対策として効果的であり、公共用水域の水質の保全もしくは改善に寄与することを実証するために 行う。 調査の結果は、当協会が参加する各種イベント等の場において発表する。</p> <p>2. 内容</p> <p>①選定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浄化槽整備事業（「市町村設置型」・「個人設置型」）実施の市町村に 関係する身近な河川を原則とし、当該市町村の整備計画等をあらかじめ把握し参考とする。 ・群馬県が環境白書に発表した環境基準未達成河川に流入する身近な河川を 対象とする。 ・家庭雑排水等以外の汚染源（豚房、工場等）がある身近な河川は対象としない。 <p>②調査対象（身近な河川）の数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・24以内（12地域 各2川） <p>③調査の方法等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・採水箇所は、1河川につき、汚染に関する生活区域を想定（以下、「一定区域」という。）し、上流部下流部1箇所ずつとし、定点とする。 ・定点における採水及びその分析は、年1回とし、当面平成21年度より10年間継続する。 ・水質分析項目は、生物化学的酸素要求量（以下、「BOD」という。）とする。 ・採水は、「採水記録票」に必要事項を記入する。 ・当該一定区域内の浄化槽等（単独：合併：くみ取り）の設置状況の変化の把握に努める。 ・採水作業は、当該一定区域に関する当協会の維持管理部会員もしくはその従業員が行う。 <p>④水質結果の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境基準値を参考とする。 ・群馬県環境白書に発表されている河川の水質結果を参考とする。 <p>⑤その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水質の分析は、計量証明事業場に委託して行う。 ・試料は直ちに保冷し分析機関に搬入する。
事業実施期間	平成 28. 6. 5、平成 28. 8. 27 予定、平成 28. 10 月予定	平成 28. 7. 1 ～ 29. 2. 28
事業実施場所	三の丸庁舎広場、霞ヶ浦環境科学センター、カシマススポーツスタジアム	群馬県内
事業総額	377,753円	374,800円
助成金額	188,876円	187,400円

(一社) 全国浄化槽団体連合会 「平成 28 年度 水環境保全助成事業 (審査ベース)」

団 体 名	(一社) 兵庫県水質保全センター	(一社) 鳥取県浄化槽協会
代 表 者	会長 九坪 登志彦	会長 早瀬 一美
所 在 地	兵庫県神戸市中央区港島南町 3-3-8	鳥取県鳥取市松並町 2-160 城北ビル 303
事 業 内 容	<p>環境教育・浄化槽普及啓発パンフレットの印刷</p> <p>小中学生を対象に「生活排水」と「水の循環」をテーマとした河川での水質分析を行う環境教育を実施する。健全な水循環や公共用水域の水質保全に関して、各家庭等から河川への流入水が及ぼす影響を、調査検証することで、浄化槽の普及を図る環境教育を行う。</p> <p>浄化槽の管理者等を対象とした浄化槽の維持管理を推進するパンフレットを作成し、浄化槽管理者・行政・関係団体等に配布する他、イベント等で参加者に配布して浄化槽の普及啓発を図る。</p>	<p><small>なかうみ</small> 中海環境フェアの参加</p> <p>1. 目的 中海の浄化を考える様々なグループの取り組みや成果を市民の皆さんにご覧頂き、中海再生プロジェクトの実施する環境の保全を図る事業に参加し、浄化槽の普及啓発活動を行う。</p> <p>2. 内容 名称 中海環境フェア 主催 NPO法人中海再生プロジェクト 共催 鳥取県・中海テレビ放送 目的 中海の浄化に向け、より多くの市民に浄化槽について関心を持っていただき理解を深めていただく為実物大の浄化槽のカットモデルと解説パネルを展示し、浄化槽の働きについての説明と、パンフレットを配布する。 内容 各団体による中海の水質浄化を中心とした環境学習などの展示</p>
事業実施期間	平成 28. 8	平成 28. 8
事業実施場所	かこがわし りょうそう すもとし せいうん 加古川市立両 荘 中学校、洲本市立青雲中学校、 神戸市北区淡河本町自治会	米子食品会館
事業総額	260,440円	210,443円
助成金額	130,220円	105,221円

7 (一社) 全国浄化槽団体連合会 「平成 28 年度 水環境保全助成事業 (審査ベース)」

団 体 名	(公社) 徳島県環境技術センター	(一社) 鹿児島県環境保全協会
代 表 者	会長 大坂 利弘	会長 池畑 憲一
所 在 地	徳島県徳島市津田海岸町 2-33	鹿児島県鹿児島市宇宿 2-9-9
事 業 内 容	<p>「環境学習」の開催</p> <p>1. 目的 徳島県では、環境保全への意識改革を目的とし、将来を担う子供たちを対象に下記内容の「環境学習」を行っている。当団体が環境学習を開始して 28 年度で 5 年目となるが、当初年間 3 校ほどであった環境学習も、口コミによる好評を頂き、また県及び市町村も協力して頂けるようになり、27 年度は全 27 回を実施し、参加者も 1, 422 名に上った。対象も子供たちだけでなく、一般の団体等にも広がっており、今後も所期の目的を達成するため、より受け入れられやすい学習内容へと改善を図り、さらなる普及に努めたい。</p> <p>2. 内容 当法人の職員(環境学習インストラクター)が学校へ出向き、当該学校の教師の方の協力を得て、当法人作成の環境学習プログラムを基本に、</p> <p>I) 污水处理施設のしくみや、生活排水が河川等の汚濁の原因であることについて講義。</p> <p>II) 水質の汚濁や浄化の仕組みについて様々な理科実験を通じて学習する。</p> <p>①理化の実験の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手作りのあめんぼうの模型を、水を張ったシャーレに浮かべ、洗剤を滴下し洗剤の与える影響を観察する。 ・干潟のモデルとしてアサリを使った水の浄化実験を行う。 ・身近な飲み物や、調味料をサンプルとし、COD パックテストを使って水の汚れ具合を調べる。 	<p>ふるさと祭り等への出展</p> <p>事業内容 鹿児島県内の市町村(特に生活排水処理率の低い地域)で開催されるふるさと祭り等に浄化槽コーナーを設けて出展し、地域住民に対して浄化槽の普及啓発活動を行う。</p> <p>《主な内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浄化槽のカットモデルや生活排水対策に関するパネル展示 ・浄化槽設置推進に関するリーフレットの配布 ・浄化槽に関するクイズの実施 ・浄化槽に関する相談対応
事業実施期間	平成 28.6~ 29.3	平成 28.9.1~ 28.12.15
事業実施場所	徳島県内	鹿児島県内 2 市町
事業総額	533,347円	416,620円
助成金額	200,000円	200,000円

団 体 名	(公社) 愛媛県浄化槽協会	
代 表 者	会長 寺井 政博	
所 在 地	愛媛県松山市辻町 2-31	
事 業 内 容	<p>環境学習に使用する小冊子の印刷・製本、並びに体験型学習の教材としてパックテスト (COD)、手作り顕微鏡を使用する</p> <p>1. 目的 次世代を担う子どもたち (小・中学生等) を対象に、一般家庭で使われた水がどのように川に流され、自然に戻るか等、水環境に関する知識や水の大切さについて教材等を使い、実際に体験し理解してもらうことを目的として、平成25年度より環境学習を実施している。各授業は①座学講座に合わせる②体験型学習 (実験・観察等) を組み実施しており、平成28年度の環境学習の座学講座にて使用する小冊子を印刷・製本する。(授業で使用した小冊子は児童に配布)。体験型学習では生活排水がそのまま川に流れると、どれくらい川が汚れるかパックテスト (COD) を使い水質を測定する。また、川の水や浄化槽をきれいにする微生物を、手作り顕微鏡を使って実際に観察する。</p> <p>2. 小冊子の内容 くらしと水の関わり、川の今昔、水の大循環等の説明を行い、結果として水を大切にするために私たちが出来ることは何かを考えていく。</p> <p>①くらしの中での水の使われ方 学校、家庭等生活の中で、水はどのように使われているか、また、私たちのくらしと水との関わりを知る。</p> <p>②昔と今の川について 使った水が汚れていること、またその水が川や海へと流れていくことを知る。川の今昔から、自浄作用の仕組みを知り、現在の川の汚濁の主原因である生活排水について考える。</p> <p>③みんなが出来ること 生活排水をどのようにして自然に返してあげるのがよいかを考える。また、その実現のために私たちに何が出来るのかを考える。</p> <p>④水の大循環について 水の大循環から、学校や家庭等生活の中で使う水が、どのように姿や形を変えて最終的にどこへ行きつくのかを知る。 なぜ私たちは使った水をきれいにしなければならないのかを知る。</p> <p>3. 印刷・製本数 平成27年度実績 21校と3イベントで実施 (対象児童: 772名)。 →教職員への配布数も考慮して800冊とする。</p> <p>4. 水質測定 (パックテスト) の内容 生活排水がそのまま川に流れると、どれくらい川が汚れるか。「洗濯洗剤」、「手洗い後の水」、「ジュース」、「うどんの汁」、「水道水」の汚れを、パックテスト (COD) を使用し測定する。</p>	<p>パックテスト数量 平成27年度実績21校と3イベントの内、体験型学習で水質測定 (パックテスト) を選択した児童数525名。 →講師用を考慮し、600名分とする。 $600 \text{個} \div 50 \text{個/箱} = 12 \text{箱}$</p> <p>5. 手作り顕微鏡の内容 協会で準備した微生物を、手作り顕微鏡を使って実際に観察する。小冊子に載せている微生物と見比べて微生物の種類、また、微生物の動き等を観察してもらい身近に感じてもらう。</p> <p>パックテスト数量 平成27年度実績21校と3イベントの内、体験型学習で手作り顕微鏡を選択した児童数34名。 →平成28年度は選択者が増えることを想定し、50名分とする。</p>
事業実施期間	平成 28. 4. 1~29. 3. 31	
事業実施場所	愛媛県内	
事業総額	256,704円	
助成金額	128,352円	

